

### ○研究目的

日本に暮らす生活者としての外国人が増加している。多言語化や、外国人住民の言語の問題は、外国人住民が「これから」増える地域においても議論されるべきである。本調査では、「これから」外国人住民が増加することが想定される自治体、地域が目指すべき多言語社会と、それに必要な言語的施策の検討し、図にまとめて示すことを目的とする。

### ○活動内容

所沢市と 3 つの地域の事例を取り上げ、3 つの観点から論じる、という方法を取った。まず、観光振興が有益な多言語化をもたらすか、について埼玉県飯能市、2 点目に、多言語化の限界をカバーする「やさしい日本語」について島根県出雲市、そして外国人住民の母語を使う場としての外国人コミュニティについて東京都江戸川区を訪問した。また、3 点それぞれについて所沢市の現状調査も行った。

### ○結論

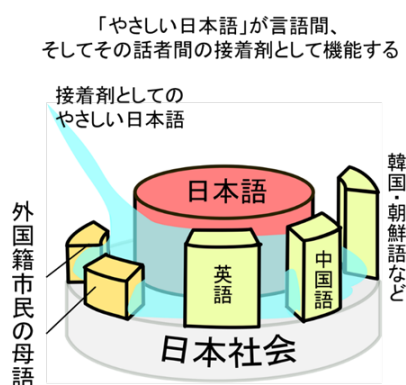


図 1 理想的な多言語社会

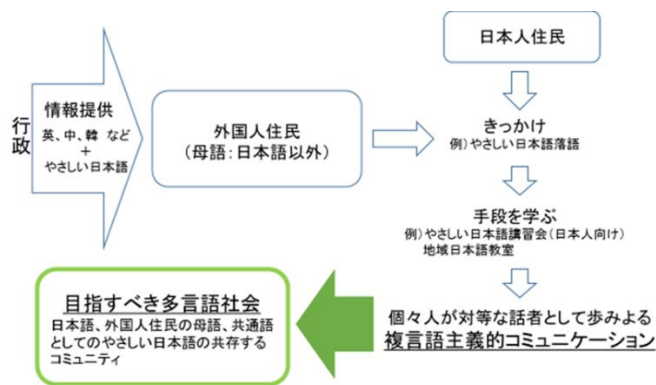


図 2 理想的な多言語社会への過程図

上記の図 1、図 2 を通して提示した結論は主に①多言語化には限界があるため、「やさしい日本語」も取り入れるべき、②お互いが対等な話者として、互いの言語能力を考慮した歩み寄りのもとに行われる複言語主義的コミュニケーションが必要、の 2 点である。この 2 点が満たされた社会こそ、理想的な多言語社会なのではないだろうか。

なお、本調査には、日本語や日本社会に興味がない外国人住民へのアプローチや、複言語主義に関連したバイリンガルについてなど、まだ検討すべき課題が山積している。これらは今後の研究で検討していきたい。